

名古屋市土木部長 に榮轉した 花井又太郎氏

昨年十一月に大阪市地下鐵から名古屋市の土木部長に轉じた花井又太郎氏の動き方は斯界の注意を引いたものゝ一である。

局長とか部長級の移動になると大概は政治的影響がある様であるが、花井氏の動きにはそれらしい噂もない様である。

○
名古屋市では前の復興局土木部長であつた大岡大三氏が短期で止めて、横濱市の土木局長に轉じて以來土木部長は空席となつてゐた。暫らく補充がなかつたので萬事不振の際とて或は名古屋市には水道部長だけを保存して土木部長を廢止するのではなかつたかとさへ思はれてゐた。それが政友會内閣となつた故かも知れないが、土木部長復活となり、花井氏が大阪から轉じたのである。

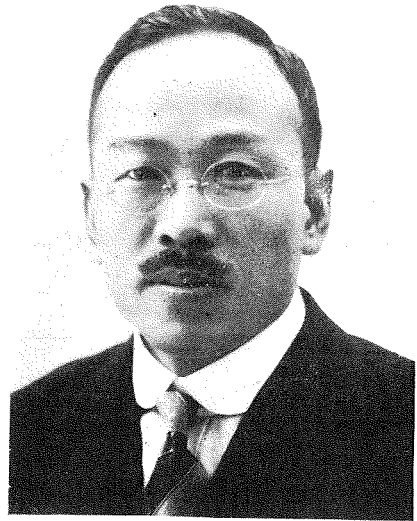
○
何うして花井氏が大阪市を辭めて名古屋市に入つたか、若し強いて理由を求めらば、花井氏は元來愛知縣の出である、三河武士の老父一人が淋しく暮してゐる故郷の地である。父の傍で老後を見たいと云ふのも一理由であつたらうが、現水道部長の池田篤三郎氏が、極力花井氏を懇請したとの事である。

池田氏も曾て大阪市に居た技術家で、兼て花井氏の人物なり技術的手腕を知つてゐるので、今日名古屋市の有ゆる土木技術の爲に俱に相提携して働くには最も理解ある適任者として迎へたのであらう。

○
花井氏は大阪市に十三年も居たので、大阪市の爲には最も良い技術的経験家である。勿論恩給年限にも達してゐるのであるから、手離すのは惜しい事であるが、其所には大阪市技術幹部、内務省方面の技術幹部に於て充分なる理解があつて、名古屋市の爲に適任者を與へる事となつたのである。

○
花井氏は大正二年の東京帝大土木科出であるから同窓としてば鐵道省の田中豊博士や岡山建設事務所長の淺間逸雄氏や、東京電燈會社計劃課長の大島滿一氏や、其他官民方面に有力な活動をしてゐる人が多い。

○
花井氏は東大を出ると朝鮮總督府に奉職した、而して今は故人となられた坂出鳴海氏が勅任技師の土木課長時代に、七年間も道路、下水、橋梁等の計劃に當つてゐた。其當時朝鮮に於て約二千萬圓の豫算でイリゲーション案を立てたが入れられなかつたので實際の工事に當り度いと云ふ希望に燃えてゐた若



花井又太郎氏

手技術家、花井氏や當時の同僚數名と俱に辭表を呈出した。

○
當時大阪市には都市計劃部長として直木倫太郎博士が在つた、直木博士は坂出氏と知己の間であるから、花井氏を迎へて大阪市に入れ、土木課長清水源氏の下で市の道路下水等に關係してゐた。清水氏が電氣局工務課長に轉じて高速地下鐵道の計劃を起すや、花井氏も招かれて電氣局に轉じ、計劃に與ると俱に工事の實際に當り、高速地下鐵道第一建設事務所長として、大阪地下鐵工事の第一線に立ち、市廳附近堂島川から土佐堀川附近の河底隧道工事と、堂ビル前から大阪驛までの地下鐵工事約一千里の建設に當り其大部分は既に竣工に近づいてゐる。

○
昨年四月淀屋橋附近の河中をシートパイルで締切つたヶ所が漏水のため崩壊して問題を生じてゐた、其責任は何處に在つたか知らないが、此等は地下鐵工事としては非常に貴重な經驗で、其損害は決して無意義に終らない、日本工務技術界に有益なる參考資料を與へたのである。若し其損害の額を見るならば、水の都大阪の地下鐵大工事としては輕少な實驗費であつたとも言へる。

○
名古屋市が地下鐵を計劃する時があつたとしたなら良き經驗家を得たわけである。

○
花井氏はまだ壯年である。技術家として今後の期待が大であらう。人物は正直一方の性で、短身頑健趣味は釣と而して投網、テニス、圍碁、玉突等にも及んでゐる。家庭的にも恵まれた人で、數人の愛兒もある。